



国際ロータリー第2790地区 2012年度～2013年度



インターシティ・ミーティング 報告書

『米山記念奨学会を通してロータリーをさぐる』

- ◆日 時：平成25年2月13日（水）12時30分点鐘
- ◆場 所：松戸商工会館 5F大会議室
- ◆ホストクラブ：松戸西ロータリークラブ



～ インターシティ・ミーティング ～

開会宣言+点鐘 松戸西RC会長 渡辺 孝治

国歌並びにロータリーソング（奉仕の理想）斉唱

来賓紹介 河合 直志

第12分区会長・幹事紹介 河合 直志

ガバナー補佐挨拶 第12分区ガバナー補佐 川上 伸夫

来賓ご挨拶 第2790地区パストガバナー 土屋 亮平

来賓ご挨拶 第2790地区パストガバナー 石井亮太郎

基調講演 国際ロータリー 第2790地区
ロータリー米山記念奨学会委員会委員長 平野 一隆

講演 元米山記念奨学会奨学生
東京米山友愛RC 林 志英

米山記念奨学会・奨学生紹介

松戸西RC米山カウンセラー 三浦 幹敏

奨学生挨拶

質疑応答

総評 国際ロータリー 第2790地区
ロータリー米山記念奨学会委員会委員 織田 信幸

感謝状贈呈並びに直前ガバナー補佐ご挨拶
第12分区直前ガバナー補佐 安井 克一

次年度ガバナー補佐ご挨拶 渡辺 敏弘

次年度ホストクラブご挨拶 松戸北RC会長エレクト 児山 守治

点鐘 松戸西RC会長 渡辺 孝治

ホストクラブ開催挨拶



松戸西ロータリークラブ

会長 渡辺孝治

本日 12分区のIMに参加いただき 誠にありがとうございます。
パストガバナー土屋亮平様 石井亮太郎様ご出席ありがとうございます。

そして、本日基調講演をしていただき、地区米山委員長平野一隆様ありがとうございます。平野様に置かれましては、このIMのために一度松戸西クラブに来ていただきました。地区米山委員の織田様には本日参加の奨学生の参加要請、連絡の窓口と活動していただきました。

ところで、今年のIMのテーマについては、12分区の5クラブ会長・幹事会にて、協議の上決定いたしました。補佐の意見によるところが大きかったのですが、米山についての知識が足りないのではということになり、そしてご案内のように「米山記念奨学会を通してロータリーを探る」になりました。

松戸西クラブでは、スリランカ人のサジーさんという奨学生をお世話しております。とても聡明な方であり、奨学生でありながら、半年前に女の子を出産するというタフさを持っている。本日は、スリランカに用事があって居りません。非常に残念がっていました。

松戸西クラブとしましては、サジーさん通じて、今後スリランカと交流をする予定です。

結びに、ホストクラブとしまして、IMの進行がスムーズに、そして参加された皆様が最後まで参加いただくにはどうすれば良いかと考えて、プログラムを作りました。

基調講演 奨学生の卓話 奨学生の紹介と続けて、進行しますが、最後までご静聴よろしく願いいたします。

ガバナー補佐挨拶



第12分区分区ガバナー補佐

川上 伸夫

本日のインターシティ・ミーティングは土屋亮平・第2790地区パストガバナー・石井亮太郎・第2790地区パストガバナーをご来賓にIMリーダーとして米山記念奨学会 平野一隆地区委員長、そして元米山記念奨学生で現在「東京米山友愛RC」林 志英会員・6名の米山奨学生をお招きし、松戸・松戸東・松戸北・松戸中央・松戸西各ロータリークラブ会員登録167名でIMのテーマを「米山記念奨学会を通してロータリーを探る」にいたしました。

米山記念奨学会は単に寄付委員会なのかと私は当初思っていたのです。米山奨学生（サディーさん）と身近に接していると深い友情を感じ留学生のお国も知りたくなるのです。そして日本という国も正しく知っていただきたいと思うのです。

さらに私たちは、ロータリーの志を見つめるためにも日本独自の米山記念奨学会がいつ生まれ、日本のロータリーは、世界のロータリーはいつ誕生したのかを逆にたどってみると、今までと違う「気付き」があるのではないかと思います。

本日までご出席6名を含め米山奨学生を知っていただきたい。卒業生も知っていただきたい。そして戦後1949年3月復帰の日本ロータリーを知っていただきたい。

その時、1952年東京RCが提唱した「米山基金」（二度と戦争を起こさないために国際親善と世界平和に寄与するために）それが「米山記念奨学会」の前身なのです。

ここに居らっしゃる方々は、『平和を愛し行動するロータリーアンなのですから！』詳しいお話は、これから始まります。どうぞお楽しみに！

パストガバナーご挨拶



第2790地区パストガバナー

土屋 亮平

ようこそIMにご参加いただきまして心から御礼申し上げます。
川上第12分区ガバナー補佐主催のもとにこのように大勢の会員の方々、地区からも平野委員長、織田委員お二人がおいでいただきました。

また本日おこしの米山友愛クラブの林さん、そして現役の6人の米山奨学生の方々とロータリアンの皆様は親しくしていただいて、より一層米山への理解を深めてほしいと思います。

ちょっとIMについてお話したいと思います。このIMというのは1990年からIMと呼ばれるようになりました。そして、IMの主旨というのは、1912年アメリカのオークランドロータリークラブがたまたま合同会議を開催しましたら、大変有意義であるということで、高く評価されたのが始まりです。そうした歴史あるIMでございます。

どうか皆様、これを機会に各クラブで友愛を一層深めていただきますことが、IMの主旨でございます。どうぞひとつ有意義な会になりますことを祈念いたしましてご挨拶に代えます。本日はご苦勞様でした。



パストガバナーご挨拶



第2790地区パストガバナー

石井 亮太郎

皆様こんにちは。当分区のIMにおでかけいただきまして、ありがとうございます。米山友愛クラブ、奨

学生、カウンセラーの方ご出席ありがとうございます。

先程、ガバナー補佐から、米山奨学会の目的は、世界平和と親善を推進するプログラムとご紹介がありましたが、確かにそのとおりなんです、この奨学会ができた時は、米山梅吉さんという東京ロータリークラブの創始者でありました方が、海外特に台湾から日本へ留学して困っている方に、何も言わずに学費を提供していた。その学生が帰国してから、米山さんの援助があって卒業できたということを知ったらしいのであります。また日本へ来た時に東京RCに申し上げにみえたそうであります。

米山さんという方は、三井財閥の重役でございまして、大変な金持ちであったろうと思います。しかし、ご自分の名を告げずに台湾の誰だかわからない人に学費を援助する、それが大変永い期間大勢の方に善行を修められていたらしいのであります。で、米山さんがそういうことをやられているという話を例会なんかでしますと、「余計なことを言わないでくれ」と怒られたというエピソードもありますが、結局東京RCは、米山さんの死後、米山さんの遺志を継いで何とかこの会の学生に支援を送ろうじゃないかと5年ぐらいクラブの会員が金を出し合ってやったそうであります、人数も増え、お金が段々逼迫してまいりまして、東京クラブだけではなんともならない、そこで日本のロータリーに米山奨学会ということで参加していただきたいということで、財団になったわけです。私、2、3日前に13分区のIMのリーダーに呼ばれました。そこでお話したこともロータリー財団と米山奨学会、これを中心にお話申し上げたんですが、ロータリー財団のですね、ポール・ハリスが亡くなるまでは、1947年1月27日ですか、それまでは1917年に提唱された基金というものが集まらずに信託宣言をし、財団の認証を受けたのですが、なかなかお金が集まらない。それでポール・ハリスが亡くなられた時に我々後輩のロータリアンは彼の遺志をどうやって継承していくかを考えたんです。ポールが亡くなる頃に考えていたことは、日本が原爆にみまわれて戦争が終結しました。

彼はロータリーの創始者として行動することができないか悩まれて、周囲の人にそういう話をされたそうです。第三次大戦は起してはならない、私は今一生懸命そういうことを考えているんだというような話をして亡くなられて、では何をやったらいいんだということで東京クラブの米山さんと同じです。

結局、彼が訴えていたこと、世界平和を推進するためには、次世代を担う若い人たちに、海外に留学交流をしてもらって、相互理解を深めて、戦争を断ち切ることができるのではないかというのが、RC財団の考え方があります。米山奨学会もまた同じであります。で、ポール・ハリスの亡くなられた後に、財団はいろいろなプログラムをおこなっております。これは、皆さん一人一人のご寄付によって成り立っているんでありますが、私は13分区で申し上げたんですが、11月のロータリーの友に田中RI会長のメッセージがのっております。

ここに、ロータリー財団はロータリーの土台だ、これはロータリーを支えているんだという書き出しですが、私はそうとは思わないんです。ロータリーがあるから、財団があり、米山奨学会がある。ロータリーという幹から出てる枝が、それぞれの財団であると理解しております。RI会長は、この地区の地区大会にRI会長代理でみえた時に、「銀行から千ドル融資を受けて私は米山奨学会に寄付をさせていただきました。

今、銀行はいくらでもお金を貸してくれますから、皆さんもどうぞそういう方向でロータリー財団に寄付して下さい」というスピーチを晩餐会でやられたわけですね。ちょっと会長代理、そういうことをここで言ってもらっては困るよ、我々企業の経営者は資金繰りに四苦八苦しているんだから、あなたの言うことには聞く耳持たないと怒って帰った方がおりました。田中さんという人は、ロータリー財団を非常に大事に考えていて、今や国際ロータリーの会長になった彼を支えていたのが財団であったのではないかと、私は皮肉まじりにそういう話を致しました。

まあいずれにしても、財団や米山、こういうものによって、プログラムが消化されるということは、皆さんが直接関われないような事まで、ロータリーはやってるわけです。ただ、皆さんがお金を出しただけでは、関わったことにはならないんです。これは、奉仕の前提になる基金をただ出したというだけであります。今日、カウンセラーの方もおみえかま分かりませんが、奨学生に接してお世話をしたり、そして卒業されたOBの方に親しくお付き合いをさせていただき、これで初めて奉仕が実践されているんだとロータリーは言うんであります。ですから、寄付は出す方が主体でありまして、出したくないと思ったら出さなくても済むんです。

だけど、その意義を感じ、そしてこれを支えていこうとする気持ちのある方はどうぞひとつ皆さんの浄財を財団や米山に寄付していただく、これは大事なことだろうと私も考えます。

話が長くなり、申し訳ありませんでしたが、以上で終わりにします。

～基調講演～



国際ロータリー第2790地区
ロータリー米山記念奨学会委員会
委員長 平野 一隆

「60年をむかえた米山奨学事業」

1946年、日本で最初のロータリークラブを創立した故米山梅吉翁が亡くなった後、その多くの功績も含め、永遠に偲ぶ後世に残るような有益な事業をやろう・・・ということで、1952年、東京ロータリークラブが留学生への奨学事業「米山基金」を作りました。多くの選択肢があったであろう中で、外国人留学生への奨学金という事業が選ばれたのには、戦後の復興へと向かい始めた中で「二度と戦争の悲劇を繰り返さないために『平和日本』『を肌で感じてもらいたい』『今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか』という当時の日本のロータリアン達の強い思いがありました。この理念が共感を呼んだことは、こ「米山基金」がわずか5年で日本全国のクラブの共同事業となったことで証明されていると思います。

当時のロータリアンの、この事業への大きな期待を感じます。川上ガバナ補佐は、「この辺りの事から、戦後の日本のロータリーの発展、会員増強や拡大には、全国的な広がりをもせた『米山事業』が大きな力となっていたような気がする」と私に仰いました。

その後、様々な改革や制度に対する工夫を加え大きな発展をとげ、現在は、国内で民間最大の奨学事業となっています。時代と共に変わってきた部分もありますが、変わらないものもあります。それは、「将来、日本と世界とを結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成すること」という事業の目的です。まさしく、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業と言われる所以であり、日本のロータリーの創始者達が繋いできたロータリーのタスキは、今、我々ロータリアン一人ひとりの手にあると言えるのではないでしょうか？米山奨学事業は全国ロータリークラブの全地区合同活動となっており、その管理・運営をおこなっているのが、昨年公益財団法人となった米山記念奨学会です。

議員会及び理事会が組織され、活動及び運営方針や財務管理等がなされています。当地区からは副理事長として平山P G、評議員に山田P G、監査に森島P Gが就任されています。また、実際の事務を行っているのが事務局で、奨学生・学友、寄付金等のデータ管理や、問題が起こった時のアドバイス等をおこなっています。因みに、事務局の給与は、基本財産として積み立ててきた50億円の利子収入で賄っており、寄付金は全て奨学生のために使われていることもお伝えしておきます。

また、寄付金には、普通寄付と特別寄付の二種類があります。普通寄付とは、全ロータリアンからの定期寄付であり、当地区では半期2,000円以上、年4,000円以上を目標額として、皆さんの会費からほぼ自動的に送金していただいています。なぜこのような制度があるかと申しますと、1967年に財団法人の認可を申請した際、「安定財源」が問題となり、国内全クラブから普通寄付の確約をもらうことで一定収入が見込めるとし設立許可を得たことです。普通寄付は義務ではありませんが、「全地区合同活動」との認識のもとにあるということをご理解ください。

我々地区米山記念奨学会委員会の活動は、 寄付増進

地区内全ての会員に米山奨学事業への理解を深めて貰うことを大目標とし、クラブ委員長セミナーの開催、意識の喚起を目的とした各クラブでの「卓話」をおこないました。奨学生は最低1度は卓話に訪問することとし、今年度は「米山月間」に拘ることなく要望がある限り卓話させていただくこととしておりますのでこれからも卓話の予定が入っています。このような活動から、皆さんに米山を理解していただき、結果として特別寄付に繋がれば良いと考えております。

学友・奨学生

学友会のサポートと現役奨学生のケア、そして重要なのは「奨学生達がロータリーとの関わりの中で、どのように成長するか？」ということです。世話クラブ・カウンセラーとの協力の下、「奨学生・カウンセラー研修会」「研修探訪旅行」「新年懇談会」等様々な行事を行ってきました。そうした行事の積み重ねから、お互いにうち解けて話ができるようになり、懸案であった地区学友会の活性化へも踏み出せましたし、卓話の成功へも繋がったと自負しています。

選考

地区の寄付金の額によって奨学生数が決定されます。2013学年度は、17人の新規採用枠に37人の応募がありました。選考委員会により、書類選考、面接から合否判定会議を経て、1月中旬、新規奨学生が決定しております。採用奨学生については、しかるべき時期に皆さんにお知らせするよういたします。

60年以上も続いてきた米山記念奨学事業ですが、これからは、実績が問われることとなるのでしょうか。では、その実績を作っていくのは地区委員会名なのでしょうか？ガバナーなのでしょうか？世話クラブやカウンセラーなのでしょうか？

大切なのは、地区内ロータリアンの皆さんが米山記念奨学事業を理解してくださること・・・に積極的な意識のもと建設的な意見を持っていただくことだと思います。その意見や想いが、時のガバナーに届き、運営に携わる地区委員会に届くことによって、それらは地区の方向性を示すものとなり、地区の米山事業の発展に繋がります。それはしいては、日本全体の米山記念奨学事業の更なる発展にも繋がっていくでしょう。

もちろん、選考委員会では「どんな奨学生を選んだか？」が問われるという重責を認識するべきであり、世話クラブ・カウンセラー・委員会が協力しながら「どんな奨学生に育ってくれたか？」という実績を積み重ねていくことをおざなりに考えてはならないと思います。肝要なのは、地区委員会は新陳代謝をしながら多くの意見を取り入れる素養を持つことであり、ロータリアン一人ひとりが「関心」を持つということです。そのためには、世話クラブ・カウンセラーもより多くのクラブ・ロータリアンに機会があることが望ましいと考えています。このことは、得居ガバナーが我々委員会に示した活動方針である「地区内全てのロータリアンに米山記念奨学事業を理解してもらえらるような活動」の通ずるものであり、地区委員を刷新した意味もそこにあったのだと理解しています。

地区で受け入れる奨学生は、皆さんの寄付金で支援をしていて、皆さんが受け入れているという意識を持っていてください。「寄付も出すが口も出す」が良いと思います。そして、皆さんが、我々日本のロータリアンの誇りである米山記念奨学事業を育てていくのだということを自覚していただきたいと思っております。

韓国にも台湾にも、そして中国にも、直近ではタイにも学友会が組織され活動しています。身近には、過去に世話をした奨学生との交流が、途切れることなく続いているクラブも有るはずです。そして、地区大会ホームカミングでご紹介したような、千葉で学んだ奨学生が祖国で大きく活躍しているという確実な歩みも見てとれます。他にも、全国的には沢山の「架け橋」ができています。実績は確実にあがっているのです。

ですから、もう一度・・・米山記念奨学事業に目を向けてください。そして今だからこそ米山記念奨学事業について考えてみてください。

今日このIMという場のテーマに「米山」を選んでくださった第12分区の「関心」が、地区内全体に広がることを心より願っております。

～講演～



元米山記念奨学会奨学生
東京米山友愛RC
林志英

こんにちは、1750地区から参りました林と申します。会社は常磐線の亀有駅の近くにありまして、日頃から松戸ロータリークラブの会員さんであります千葉銀行さんとお付き合いさせていただいております。そのご縁で、織田さんのお招きでお話することになりありがとうございました。

先程、平野委員長のお話にもありましたように、去年日中関係が尖閣諸島の問題で険悪になりまして、千葉銀行さんとも中国へ行く予定が流れてしまいました。頭取さんも中国大好きな方で、私とは会う度にいつも中国の話で盛り上がるんですけど、本当に中国に対するご理解のある方も沢山いらっしゃることも実感し、大変うれしく思っております。私も以前、戴く側で米山奨学金はありがたく戴いてましたけど、今私はロータリアンとして自分が寄付する側として、この奨学金の有り難さを自分のポケットマネーを出して実感しております。私も今まで受けた恩恵を寄付していくことで恩返しをしたいと考えております。

では本題に戻ります。

10年前に日本に帰化しまして、林という苗字を名乗りました。まあ、中国が嫌いというわけではなくて、商品を仕入れに行ったり、仕事の関係で国際的に海外に羽ばたきたいということで、10年前に日本国籍を取得しました。出身は中国の蘇州です。水の都として有名なんですね。2千5百年の古い歴史を持つ地方なんですけど、そこで私、高校を卒業するまで、この水の都で生まれ育ちました。両親は中二の時、別れてしまっていて、私は寮生活を余儀なくされまして、そこで学校で勉強だけをする毎日で、週末だけ母と過ごすような日々が続きました。学生時代の私は、先の見えない、希望の持てない、影の薄い学生でした。他にやる事がなくて猛勉強の末、運よく日本でいうと京都大学のような名門校なんですけど、上海の復旦大学に合格しました。但し、合格通知書を開けて見たら、英語学科を希望していたのに、日本語学科になってたんですね。それが、私の日本とのご縁の始まりですね。大学に入ってから、アイウエオの勉強を始めたんですけど、3年生の時に日本語検定試験1級に合格しました。そしてその頃、長崎からコンサートツアーで、さだまさしさんが上海に来まして、

日本語のできる通訳がいなくて学生の私がボランティアで日本語の通訳をしまして、そこで知り合った人が、私が日本へ行くために身元保証人が必要なんですけど、身元保証人になってくれて、全く将来の见えない私が日本への切符を手にしたわけです。3年生の時にまだ日本へ行ったことのない私でしたが、私の日本語を聞いて、「君、日本語上手ですね。日本に来たことあるの?」と聞かれ、「ないですよ」と言ったら、「日本に留学に来ませんか?」と誘ってくださったのが、日本とのご縁でした。当時、外貨の持ち出し禁止とか色々制限もあって、又私の家庭も余分が無かったので、日本へ来た時は、たったの6千円でした。

その6千円を握りしめて、スーツケースひとつで身寄りもなく日本にやって来ました。お金は無かったんですけど大きな夢は持っていました。日本へ来てすぐ桜の季節でしたので、大阪の日中友好協会が歓迎会を実施してくださって、その時に出会った方が、協会の幹事を務めていらした方でロータリークラブの人でした。私が数千円しかないのを聞いて、日本にはこういう奨学生制度がありますよとすすめてくださって、試験会場までその方が車で送ってくださったんです。当時、筆記試験と面接で運よく受かりまして、大学院の2年間奨学金をいただきました。そのロータリークラブのカウンセラーとは家族ぐるみのお付き合いをさせていただきまして、日本文化に触れるチャンスを沢山与えてくださって、又いろんな所へ連れて行ってくださって、見識見聞を広めるチャンスを沢山いただきました。で、実は、私の今夫であります、当時の留学生だった人と同じ米山奨学生でして、私たちが結婚した時に又大分に戻って結婚祝い会をロータリーの方がやって下さって、結婚した時には新郎新婦の両家の人たちが立ち会うんですけど、私と私の夫は身寄りもないから、私たちの所属する世話クラブの人たちが両家の代表と言う形で結婚パーティを開いて下さったんですね。大分は私にとって第二のふるさとなんです。学校を出てから、東京に出て来ました。東京では、一部上場の物流会社で、初めての外国人社員としてしかも初めての女性総合職の社員として採用されました。その会社で13年間勤めまして、普通のOLとしてお仕事をさせていただきました。

又よく中国の方へも出張させていただきました。13年勤めた後、インターネットのビジネスの可能性を感じまして、インターネットを通じて人々のお役に立つ仕事をしたいという思いで、会社を立ち上げました。当時私は娘二人がおりましてピアノを習ってましたけど、ピアノの発表会の時に、子供の晴れ舞台ということで華やかな衣装を着ていくわけですけど、ドレスとかなかなか普通のお店では売ってないですね。これはチャンスだなと思ってアメリカから可愛い子供ドレスを仕入れてインターネットで販売するサイトを立ち上げました。立ち上げた当初はアパレルの知識もなくお金もなく、子供二人育てながらやってましたので、時間もなくて、コネクションもなくて、4無しの状態でスタートしました。パソコンの知識もなかったんですけど、当時夫にお願いしてページを作ってもらってました。仕事始めて2年経ったある日ですね、

お客様から一通感謝のメールが届きました。それは、そのお客様の娘さんが難病の小学生でしたが、ドレスを着て結婚式に出てすごく楽しい思いをしてその後亡くなりました。お母さんがその娘さんの最後の時に大好きだったドレスを着せて天国へ送り出したそうです。自分の娘に美しい楽しい思い出をさせてくれてありがとうという感謝のメールが届いたんです。そのメールを見て、私は幸福な思いでした。私はこの仕事をしてお客様からお金をいただいているのに、逆にお客様から感謝されて私はこの仕事をしていてよかったなと思いました。これは自分の天職だなと思いました。人々のお役に立つ仕事ができ、なんと幸せだろうと思いました。自分たちの子供二人を育てながら仕事してましたので、女性が社会で働くことの大変さを実感してまして、私の会社は9割以上が働くママさんでした。子供がちょっとした熱で保育園に預けられない時は、会社につれてきてもらったり、或いは残業の時には一旦保育園にお迎えに行つて又子供を会社へつれてきて仕事をしてもらっていました。

小さな会社でもロータリークラブの精神である奉仕活動を私も常に意識しながらやっています。ロータリーと同じようなワクチンの寄付をしたり、発展途上国のチャイルドスポンサーの活動をしたりしています。おかげで沢山のメディアで紹介されました。新聞や雑誌、テレビとかNHKのアジアクロスロードという番組では、輝く女の人生劇場ということで波乱万丈の私を取り上げていただきました。いろんな賞も受賞しました。ロータリーの支援がなければ今の私はいませんでした。こうやって社会活動をして皆さんに恩返しできるのもロータリーから受けた恩恵のおかげと感謝しています。

ロータリアンになったのは2年前でした。普通に仕事して、日本人並みの成果を出した以上これからは自分が恩返ししていく番だと実感して、ロータリアンになるのが自分のミッションだと認識して、これからは日本に帰化した日本人でもあり、中国人でもあります。又以前は米山奨学生でもあり学友でもある私が、これからロータリアンになって私みたいなロータリークラブの活動をしてロータリアンになる人を沢山作っていくのが私のミッションだと信じます。

私の夫はマレーシア人なんですが、私は日本と中国の架け橋だけではなくて、日本と東南アジア、そして中国や世界との架け橋となってネットワークを広めていくことを自分のミッションとしています。

ロータリークラブに入る前に、米山学友会で活動してましたけど、今の奨学生たちも卒業したら学友会に入られると思うんですね。韓国、台湾、タイと中国には学友会ができてます。北京の学友会の初代会長は、毎年日本の奨学会に50万円寄付しています。東日本大震災の時も50万円を寄付していました。日本で恩恵を受けて、母国へ戻っても受けた恩恵を忘れずに頑張っている人が沢山います。私が所属する東京米山友愛ロータリークラブの話をお聞きしますが、半分が一般社会人で半分が元米山奨学生でした。平均年齢37歳と若いんですが、転職したり結婚出産、子育て、親の介護という世代であります。経済的に余裕のない世代ですけども、

ワンドリンクという形で会費を抑えて活躍しています。例会場はホテルニューオオタニ、隔週で水、土とやっております。会員数は29名、国際色豊かなユニークなクラブです。私たちは、情熱と知恵をもって先輩のロータリアンの伝統を受け継ぐ覚悟を手探り状態でありながらも活躍しております。その中で、いくつかご紹介いたします。

まず学友会で、スーダン出身の方がいるんですが、その方が日本で、スーダン障害者教育支援の買いを作ってそこに目の見えない方のためにサッカーボールを寄付したりしています。日本で就職したい方のために、面接時の心得や会社とのマッチングとか留学生相談会を開催しています。

私たちのクラブができて2年なんですけど、子供ができました。米山ロータリー・Eクラブです。Eクラブというのは、インターネット場でログインしてウェブ場で交流する仕組みなんですけど、今、世界には約60ぐらいあるんですね。会費も6万円です。Eクラブ設立の主旨は、世界にいる米山奨学生のネットワーク化です。私たち元々奨学生だった人が今ロータリアンになって活動していますけれど、私たちの役割は一人でも多くのロータリアンを作っていくことです。ロータリーのネットワークをもっともっと広げていくことが私たちの使命なんです。これからも私たち留学生ならではの活動をしていって、ロータリアンとして恥の無い生き方を実践していきたいと思えます。

最後になりましたが、この貴重な卓話の機会をいただきました国際RC2790地区12分区の皆さんに厚くお礼申し上げます。私の卓話を終わらせていただきます。

皆さん、ありがとうございました。



米山記念奨学会・奨学生紹介



松戸西RC米山カウンセラー

三浦 幹敏

三浦と申します。私は、今回昨年度と今年度の2年間カウンセラーをやらせていただきまして、実は私のクラブにも奨学生がいて、スリランカから来ているサジィさんという女性ですけど、彼女を今日皆様にご紹介したかったのですが、1月12日から40日間ほどスリランカに研修のために行きまして、帰ってくるのが20日頃になる予定でして、皆さんに紹介できないのが残念です。2年間のカウンセラーも今年の3月で終わるわけなんですけど、まず代々木公園でスリランカフェスティバルというのがございまして、そちらの方へうちのクラブも一緒に参加してスリランカのことを勉強して、その日の夜スリランカのお店で夕食会をやったりとかですね、又西クラブはグルメ会というのがございまして、そちらにも参加していただいています。12月のクリスマス例会にもご主人と赤ちゃんと3人で参加していただきまして、今年3月31日で終わるわけなんですけど、ハイそれで終わりというわけではなくて、奨学金の受け渡し等はなしとしても西クラブ全員でこれからも交流を深めていきたいと色々考えてまして、できることなら来年あたり奨学生が帰った時にスリランカへの旅行をしたいなど企画しています。



米山奨学生の皆さん！



～総 評～



国際ロータリー第2790地区
ロータリー米山記念奨学会委員会委員
織田 信幸

只今、ご紹介いただきました地区米山奨学会記念委員をつとめております織田でございます。所属は松戸ロータリーでございます。只今総評ということで大役を仰せつかったのかなと思います。本来であれば、本日の主催者であります川上ガバナ補佐、あるいはそれなりの立場にいらっしゃる方が総評をなさるのが一番だと思います。非常にプレッシャーを感じております。又本日一番目の講演をしていただいた平野委員長が私の直属の上司ですから、これに対して評価をするのは如何なものかと思っております。従いまして本日は講演を拝聴したその感想と私の感じるところの米山奨学会の事業について少々話をしたいと思っております。

基調講演では、米山奨学事業の成り立ちから始まり、どのような経過を経て今のロータリークラブが発展してきたのかお話がいただけました。特に私も先程石井亮太郎パストガバナのお話をはじめ聴きました。いわゆる米山梅吉翁が、日本のロータリークラブの創始者で非常に貢献があった、そして教育に熱心でその功績を称えて米山奨学金事業が始まったということは知っておりましたが、その前に台湾からの留学生に支援をしていたというのは本日はじめて聞きましたし、それが最初の始まりであったということは本日はじめて認識させていただきました。ありがとうございました。

平野委員長の基調講演に出ていましたように、米山記念事業は当初は、東京ロータリークラブが米山基金として始まったものであります。これは先程出ましたけど、1949年に日本のロータリークラブがR I 国際ロータリーに復帰するんですね。その3年後に、もう既にこの米山奨学金事業が始まったと思っております。従いまして、この話というのは全国に広まってその5年後には奨学委員会という形で今に至るわけですけど、そういう形ができたということを非常に分かりやすく解説していただいたと思っております。続いて講演をいただいた林志英さんのお話、非常に劇的で感動的なお話でありました。まあ、私は今回、林さんに来ていただくために、林さんの会社の方へもお伺いしました。日本の女性が十数名働いておりました。DVDも私持ってますので、今度お見せしますがとても楽しい雰囲気。外国から日本にやって来て伝手もなく、苦勞されたお話がしみじみと伝わってまいりました。

人にはそれぞれ人生のターニングポイントというのがあると思います。あの人に出会わなければ、あの人への援助を受けなければ、又はそういうことを経験しなければ、多分林さんにとっては日本への留学、そしてロータリアンと知り合ったことが一番の人生のターニングポイントではなかったかなと思います。

現在、林さんは、米山記念奨学支援を受けた学友達を中心として創立された東京米山友愛ロータリークラブのメンバーです。先だって、東京米山友愛ロータリークラブの会報を拝見しましたら、林さんがネパールの子供に子供服を贈っている、又バングラデシュへワクチンを送るとかいろんな奉仕活動を行っています。ロータリー米山記念事業の目的は、日本に留学する外国人学生に奨学金を支給するという経済的支援ではありますが、そのような人的精神的支援が立派なロータリアンを育ててきているということでもあります。つまり、米山奨学金を支給して、世界に色々な有能な方が旅立って行くわけですが、その方たちが日本との友好の架け橋になるだけではなく、真のロータリアンとして育っていくことがこの米山奨学金事業の究極の目的であります。

又、日本のロータリーの歴史の中で60年以上も連綿と続いている米山記念事業は、ロータリアンが最も誇れる事業のひとつであることに疑いの余地はございません。

本日のIMのテーマ「米山記念奨学会を通してロータリーをさぐる」お二人の講演をとおして日本の歩んできた功績をひもとき、その歴史とともに広がっていった奨学金事業、そこから巣立っていった奨学生の今日を垣間見ること、ロータリアンとしての誇りとこの事業をさらに発展させる志を、本日より強く持っていただければ幸いと存じます。

少々、お時間を頂戴し、寄付金と米山事業の財政事情についてお話させていただきます。今年度、全国で米山記念奨学金の支給を受けている奨学生の皆さんは、800名でございます。当第2790地区においては、26名の方が米山奨学生として奨学金の支給を受けております。2011年度に奨学金を支給された金額は、14億400万円でございます。そして、皆様からいただいた寄付金の合計は、12億9500万円でございます。従いまして、2011年度は差し引き1億1千400万円の不足です。つまり、支給のほうが多くて収入が少ないということです。この不足分は、特別積立財産を取り崩して補いました。一時期、最高で42億円の特別積立金がありましたが、昨年を取り崩しにより、25億円まで減少してしまいました。昨年の奨学会理事会は、これ以上の取り崩しはできないということで、新年度より奨学生の採用数を100名減らして700名としました。地区ごとの採用人数はおおむね寄付金の額によって配分されます。新年度2790地区の採用人数は、3名少ない23名になることが確定しております。昨年、当地区一人あたりの寄付金の平均額は、13,714円で、全国平均の14,624円を910円下回りました。得居ガバナーは、一昨年同様会員一人あたり15,000円を拠出していただけるよう、各クラブに要請しております。

12分区は2013年1月まで、3,424,000円会員一人あたり16,950円を寄付しております。

先程、平野委員長から講演に先立ちまして、冒頭第12分区に高い評価をいただきましたが、これは単なるお世辞ではなく、12分区のロータリアンは、平均を上回って集めているということ、多分評価していただいていると思います。どうか過去12分区、諸先輩方が築きあげてきたこの実績を維持していただきたいと思います。

最後に、皆様からいただいたご寄付は、普通寄付、特別寄付ともに寄付金控除の対象となります。確定申告がやってまいりましたが、2012年1月からは、所得控除に加えて税額控除のどちらでも有利な方を採用できるような税制になりました。とくに普通寄付は皆様、義務的な形ですけれども、この普通寄付に関しても税額控除ができる、もちろん各個人が事務局をつうじて申請しなければならないんですが、特別寄付金以外にも控除ができることを申し添えておきます。

本日、ご講演いただきました平野一隆様、公私にわたりお忙しいところ、大原より松戸の地までおいでいただき、ありがとうございます。平野委員長は1月にも本日のIM打ち合わせのために、会長幹事会に来ていただきました。その熱意に改めて感謝申し上げます。又、東京米山ロータリークラブの林志英様、貴重なお話まことにありがとうございます。林さんにおかれましては、さらに事業拡大発展をされ、これから続く米山奨学生の精神的な支えとなっていだけるようよろしくお願いいたします。本日は、このような形で米山記念奨学事業に対して皆様の前でお話ができる場を、作っていただきましたガバナー補佐、そして12分区内各クラブ会長様をはじめ運営スタッフの皆様方には、改めてこの場を借りて感謝申し上げます。

本日はどうもありがとうございます。



感謝状贈呈並びに 直前ガバナー補佐ご挨拶



直前ガバナー補佐ご挨拶
安井 克一

皆さん、今日はお世話になりました。

今日は、私の知る川上さんの思いが十分に伝わった素晴らしい会でした。とくに、林さんの話を聴きましてですね、私は、生き方に、めげずに、あきらめずに、へこたれずに、これを信条としていますが、そういう意味では、グサッときましてね、今まで私がロータリアンとしてやってきたことは、ちっぽけなことだと身の引き締まる思いがしましたね。こんな若い方が、必死になってやっている、自分も負けていけないぞという気もちでとても刺激を与えられたいい会でした。

いずれにしても、川上さん、ご苦勞様でした。こんな過分な賞をいただきまして、ありがとうございました。



次期ガバナー補佐ご挨拶



次年度ガバナー補佐ご挨拶
渡辺 敏弘

ついにこの日がやってまいりました。大変、緊張しております。次年度ガバナー補佐に就任予定の松戸北ロータリークラブの渡辺敏弘と申します。宜しくお願い致します。

今年度、川上ガバナー補佐におかれましては、ロータリーに大変精力的に取り組まれ、すばらしい結果を出されております。本日のIMもしかり、大変深い感銘を覚えました。又、ガバナー公式訪問で、川上ガバナー補佐が、北ロータリークラブを訪れた際、その席の小さな打ち合わせの場で、次のようにつぶやいたことが、鮮やかに思い出されます。

それは、「私は、ロータリーが益々好きになってしまいました。これは、一体どうしたことなのでしょうね」それに対して、何もお答えすることができなかつたんですが、私はこれを聞いて、川上ガバナー補佐のロータリーに対する思い入れ、また情熱の強さに一瞬唖然としましたが、すぐに感動し、次年度ガバナー補佐がつとまるかどうか心配と不安が心の中をよぎりまして、それが今日まで続いております。次年度も今回のIM等の事業がございしますが、私なりに精一杯努力する所存でございます。どうか皆様方の一層のご支援とご協力をお願いしまして、簡単ですが、ご挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。



次年度ホストクラブ挨拶



松戸北RC会長エレクト

児山 守治

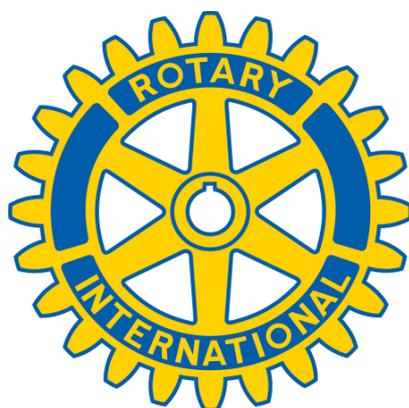
皆さん、こんにちは。

来年、ホストクラブの会長に就任いたします児山守治と申します。親クラブの松戸クラブ、兄弟クラブの東、中央、西クラブの皆さん、私たち北クラブでは、次年度一生懸命やるつもりでおりますので、例年にも負けずに北クラブへのご指導、ご鞭撻をよろしくお願いします。それで、今日は、留学生も6名来ていますし、卓話者も中国からの人なもんですから、私の拙い中国語で挨拶したいと思います。

ニイハオ・・・（翻訳出来ませんでした・・・。）







2012～2013年 IM実行委員会
(松戸西ロータリークラブ)

3事業委員会 委員長	: 石井 弘
3事業委員会 (IM担当)	: 細田昌男
IM実行委員	: 松戸西RC全員
構成・編集	: 細田昌男・河合直志